

だいしょうじょうあと
大聖寺城跡

名 称	大聖寺城跡
種 別	史跡（国指定）
所在地	加賀市大聖寺地方町古城山1番1 ほか
面 積	126,935.11㎡
時 代	戦国時代～江戸時代初
所有者	加賀市、個人
概 要	

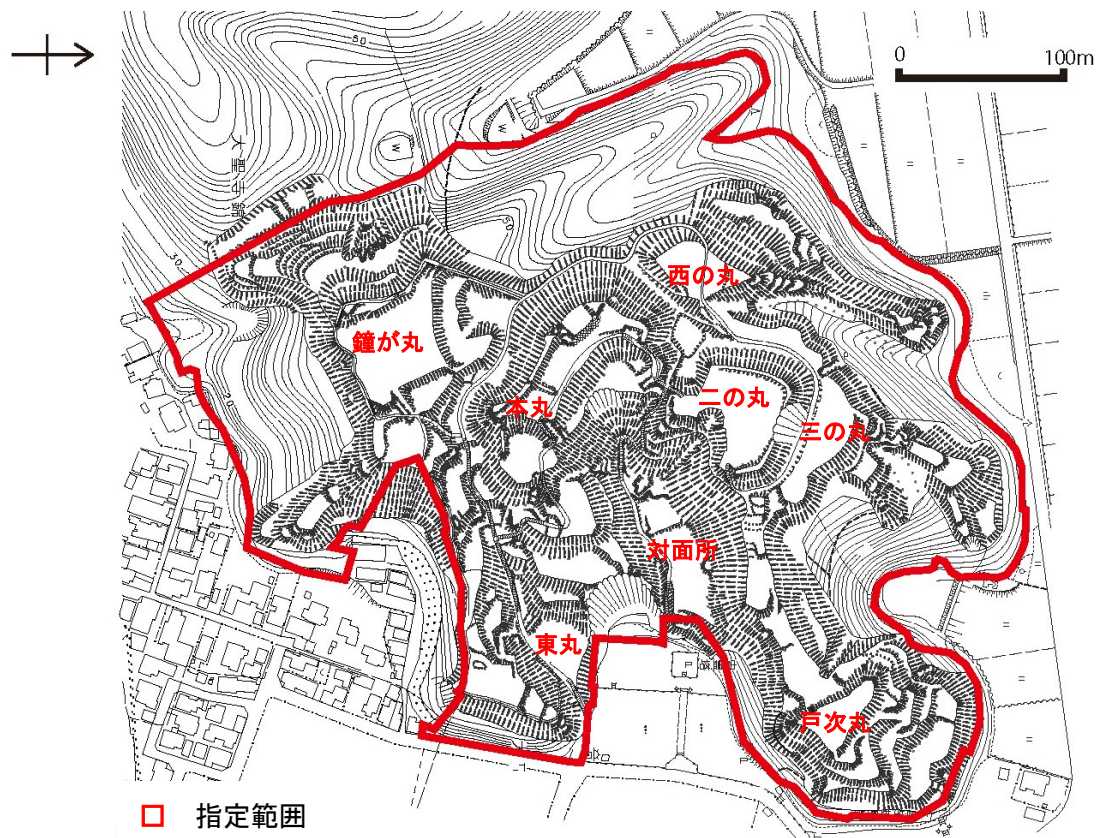
大聖寺城跡は加賀市大聖寺の市街地西方に位置する。戦国時代には加賀一向一揆の拠点の一つであり、越前朝倉氏の侵攻に際しては度々占拠された。天正3年（1575）以降は織田・豊臣両氏が支配し、同11年（1583）には丹羽長秀の配下である溝口秀勝が、慶長3年（1598）には小早川秀秋の配下である山口玄蕃宗永が城主となった。同5年（1600）に前田利長に攻められ落城した後、元和元年（1615）の一国一城令で廃城になっている。

江戸時代に作製された大聖寺城の絵図には、城のほぼ中心に本丸、その北の二の丸、同じく南の鐘が丸、その周辺には三の丸、西の丸、東丸、戸次丸、対面所の曲輪やそれらを連絡する虎口、城道が描かれており、加賀市がこれまでに実施した縄張調査・測量調査の結果と概ね一致し、遺構が良好に保存されていることが裏付けられている。また、同じく実施した発掘調査では、本丸で石垣や石組溝、二の丸で空堀等を確認し、対面所で土師器更が多く出土する等、新たな知見が得られている。

以上のように、大聖寺城跡は戦国時代の加賀国の地域支配の拠点であり、政治状況の変化を知る上で重要であり、価値が高い。



大聖寺城跡 位置図



大聖寺城跡 縄張図



大聖寺城跡 空中写真



大聖寺城跡 本丸



大聖寺城跡 発掘調査状況